

体罰と指導

現場に求められるもの

文部科学省が体罰と懲戒の区分を明示した「こと」について、教育社会学会が専門の宇部フロンティア大短大保育学科長の伊藤一統教授(42)は「指針が独り歩きしてしまつと恐ろしい」と憂慮する。不適切な指導と言ひ換えられる体罰は厳禁だが、ポディータッチは指導者と選手の有効なコミュニケーション手段。その子供にとって適切な指導であるならば一見紛らわしくても、体に触れることさ

伊藤一統教授(宇部フロンティア大短大保育学科長) ⑧

え気にする必要はないと言つ。

まず信頼関係

一番重要なことは指導者と子供の信頼関係であり、行為に対して

いく」と語る。

子供たちが育つ背景、すなわち家庭教育

の在り方も見直す必要があると説く。最近の

子供たちは少子化やゲーム機の普及で、フェ

わが子を育ててほしいと要望する。

加えて保護者には、

PTA活動に積極的に参加し、先生や指導者

らと交流してほしいと

も期待する。相互理解が進めば、学校やチームを支援していく姿勢

に変わり、先生や指導者にとつても味方が増

えることにつながつていく。大人同士の良好

な関係づくりは、指導者を受ける子供たちの態度にも影響する。

地域の役割も大きく、みんなの顔と名前が分かる一昔前の地域

社会の再構築は、自然と子供たちを見守る目

が増え、住民の子育て意識も高揚し、地域の

安全性も飛躍的に向上する。「現実的には難

題だが、地域で子育てする文化を取り戻せた

ら」と、大きな変化の必要性を唱える。

指導者に求められる資質は、客観的に自分を見られる能力。県外

では外部コーチの暴力も問題になっており、

学校外から指導者を招く場合は、先生に準じた人を選ぶ必要がある

ともアドバイスする。

体罰根絶に近道や特効薬はない。大人の都合や常識を押し付ける

のではなく、今の子供たちを認め、受け入れてあげることができれば

自然と、社会の方向性と市民意識のギャップは縮まっていくはず

だ。(おわり・この連載は岩本雅宏が担当しました)

子供の最善の利益考えて

大人同士の良好な関係も大切

の完璧な線引きはできない。「感情任せに手を出すことこそ問題がある」とし、「指導者は一人一人の子供をよく理解し、その子の最善の利益を考えて、発達段階や場面によって臨機応変に対応する力がこれからは求められて



「地域で子育てする文化を取り戻せたら」と話す宇部フロンティア大短大保育学科長の伊藤教授

慢ができるたくましい